西小だより

ホームページはこちら→

「強く　正しく　健やかに」　令和4年　11月15日（火）　第10号　校長　都外川　潔

来年度は学校創立150周年。そして、コミュニティスクールへ移行します！
11月は「児童虐待防止推進月間」、「ココロねっこ運動強調月間」です。

先日、文部科学省の方の講演を聴く機会があったのですが、その中で、「うーん、確かに…」と、考えさせられることがありました。その方は幼稚園教育にもかかわっておられたとのことで、先日、ある幼稚園の先生から次のようなことを聞かれたそうです。

幼稚園を卒園して小学校に入学したお子さんと話す機会があり、「小学校はどうですか？」とたずねたところ、「小学校は楽勝です。」という返事がかえってきたとのことです。「どうして？」ときくと、「だって、小学校では先生の言うとおりにしていればいいんです。自分たちでいろいろなことを考えないといけなかった幼稚園の方が大変でした。」と答えたそうです。

私はこの話を聞いて、まず、私が担任をしていたときのことを反省しました。子どもたちが失敗しないようにと、いろいろなことを先回りして指導しすぎていたように思ったからです。

先日、西大村幼稚園で公開保育があり、参観させていただいたのですが、子どもたちはいろいろなお店屋さんを開いていました。どんぐりごま屋さん、時計屋さん、へちま屋さん、ペンダント屋さん…など。私は、時計屋さんで、子どもたちとこんな会話をしました。私「どの時計にしようかな…。」子「これは、12時の時計です」私「なるほど、じゃあもうすぐお昼ご飯が食べられるね。」子「そうです。これは朝だから朝ご飯。まず、朝ご飯を食べて、それから昼ご飯…」「おお、『まず』という言葉を使えるんだね、わかりやすいね…。」

小学校では、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら読んだり、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えて書いたりすることは、1・2年生の国語科で学習します。また、時計の読み方は1年生で学習します。幼稚園では、決して小学校の内容を先取りして指導しているわけではなく、遊びや生活の中で、言葉の感覚やコミュニケーションの力を磨くための場の設定をされているのだなと感じました。

また、林園長先生は、子どもたちの学びや成長について次のように話しておられました。

「活動の後には、楽しかったことや困ったことについての振り返りをします。困ったことがあったら、『どうすればいいかな』とみんなで考えます。考えたことがうまくいったらみんなで喜びます。それを繰り返すうちに、何かトラブルがあっても、大人が入らずに、子どもたち自身で解決できるようになっていきます。」

私たち大人は、「子どもたちのため」と思って、つい口出しをしてしまうことが多くなりがちですが、それがかえって、子どもたちの考える力をうばってしまうことになるのかもしれません。

「どうすればいいのかな？」と子ども自身が考えられるようにすることが、学校教育でも家庭教育でも大切なことだと思います。